

様式(10)

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲保 第 32 号 乙保	氏名	板東 孝枝
審査委員	主査 葉久 真理 副査 谷 洋江 副査 近藤 和也		

題 目 Treatment-associated symptoms and coping of postoperative patients with lung cancer in Japan: Development of a model of factors influencing hope
術後肺がん患者の治療に伴う症状, Coping, Hope の影響要因モデルの開発

著 者 Takae BANDO, Chiemi ONISHI and Yoshie IMAI
Japan Journal of Nursing Science: Version of Record online: 20 NOV 2017 | DOI: 10.1111 / jjns.12193 に掲載済

要 旨 本研究は、術後肺がん患者の Hope に焦点を当てたケア開発への示唆を得るために、術後肺がん患者の治療に伴う症状、医療者による支援、自身の対処を主要変数とした Hope への影響要因モデルを作成することを目的とした。Hope は、さまざまな問題を克服する心的エネルギーとなるものである。90 名を対象に、Hope の高低別で有意差がみられたものを独立変数に、Hope を従属変数として強制投入法による重回帰分析を行い、これらを参考に初期モデルを設定した。共分散構造分析によりモデルの改良を行い、最終的にモデル適合度は、GFI, AGFI, CFI はともに基準値を上回り、RMSEA も基準を満たしたモデルが作成された。モデルから Hope には、術後の症状は負の影響を与えており、医療者の支援は直接的な影響はみられず、対処は正の影響を与え、症状よりもその影響は大きかった。一方、医療者の支援は症状に負の影響を与えており、症状の改善が Hope に影響を与えていることを示した。これらより、肺がん手術後患者の Hope を支援するためには、術後症状のコントロールを十分に行うと同時に、ストレス対処の強化が重要であることが明らかとなり、術後肺がん患者の Hope を支援する手掛かりが得られた。本モデル開発は、肺がん患者が増加している今日において、手術による初期治療から長い治療・療養生活をたどることが予想される肺がん患者のケア開発に繋がるものと評価できる。論文審査の結果、本研究の社会的意義は大きく、博士の学位授与に値するものであると判定した。